

《資料》

基礎看護学実習ルーブリック評価の開発と導入

杉浦 美佐子, 前田 節子, 高植 幸子, 井野 恭子,
奥野 友紀, 李 秀訂, 武田 智美, 鈴木 詩織, 箭野 育子

相山女学園大学看護学部看護学科

要 旨

【目的】 本学の臨地実習のうち2年次に開講される基礎看護学実習は、人間関係を構築しながら、指導を受けて看護過程を一通り展開することを目標にしている。目標の達成には教員、実習指導者と学生が、到達目標を確実に共有し、学びの質を保証していくことが重要である。我々は、2016年から学生が自己の学修状況を意識的に「何を学んだのか」を自己評価しつつ学修することを目的に、基礎看護学実習をパフォーマンス課題としてとらえ、その評価にルーブリック評価を導入・活用してきた。

【方法】 本稿では、基礎看護学実習用ルーブリック評価の作成・導入と、ブラッシュアップを継続してきた実践報告を行う。

【結果とまとめ】 ルーブリック評価を作成する際に重視した点は、実習目標とその内容、構成要素を再確認し、横軸の評価基準の具体的な内容や表現を見直す・履修する全学生がレベル3まで到達可能な目標とする・実習に関わる教員の合意のもとに作成する・学習者である学生にとって、使いやすい、理解しやすいものにするのであった。

キーワード：ルーブリック評価、臨床実習、アクティブ・ラーニング